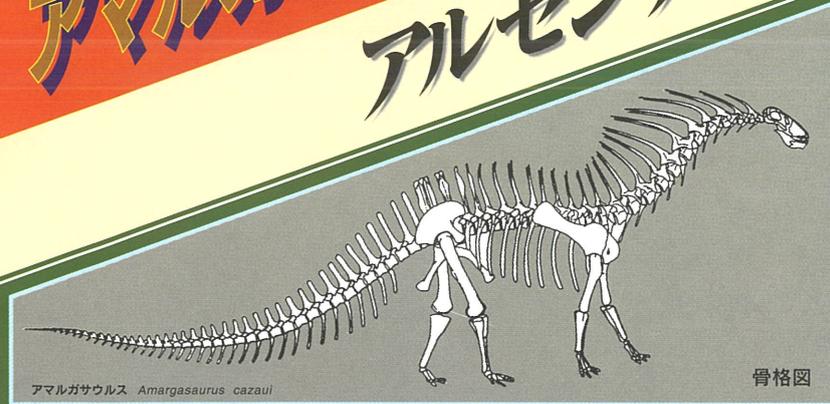




# アマルガサウルスの棘突起はなぜ長い

## アルゼンチンの恐竜と自然



棘突起(きよくとつき) Processus spinosus : 背骨から上方に突出している棘(とげ)状の長い骨で、アマルガサウルスの大きな特徴になっています。



オオアリクイ *Myrmecophaga tridactyla*

← 背中に乗っているのは子供です。

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 月曜日(ただし、7月21日と9月15日は開館、7月22日と9月16日が休館)

入館料 大人 710円(570円)  
高・大学生 430円(290円)  
小・中学生 140円(70円)

※( )内は、20名以上の団体料金です。  
※この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。

記念講演会

「アルゼンチンの自然と博物館」  
講師: アルゼンチン国立自然科学博物館長  
ウオルフガング・ウオルクハイマー博士  
日時: 8月17日(日) 午後2時より  
場所: 博物館3階 映像ホール  
参加費: 無料

次回企画展

茶と珈琲の博物館 —今ホットな植物たち—  
1997.10/4(土)～11/30(日)

■協力 アルゼンチン国立自然科学博物館 ■後援 外務省 駐日アルゼンチン共和国大使館 ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会



〒306-06 茨城県鹿嶋市大崎700番地 TEL.0297-38-2000  
ハローダイヤル011-833-225-8600 #8886 (フッシュロンド)

交通案内  
●常盤自動車道谷和原ICから20分。  
●JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」又は「岩井西高行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。

# アマルガサウルスの棘突起はなぜ長い

Argentina: The Last Dinosaur Paradise and the Present Majestic Nature

—アルゼンチンの恐竜と自然—



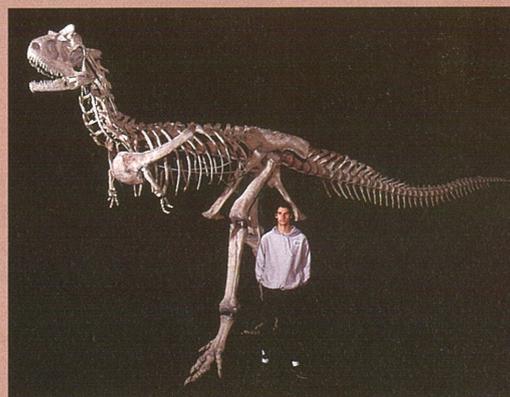
アルゼンチンの恐竜

南アメリカアルゼンチンは、近年、恐竜の起源とされる最古の恐竜や、体長15m以上ともいわれる世界最大の肉食恐竜—ギガノトサウルスなどの恐竜化石が発見され、生物進化のさまざまな情報を発信しています。

今回の企画展では、アルゼンチン国立自然科学博物館の協力により、恐竜類や哺乳類化石を国外で初めて特集して展示紹介します。とくに、恐竜類の“アマルガサウルス”は、背骨の上に長い棘(とげ)状の棘突起(きょくとつき)をもった珍しい恐竜です。この突起は、身を守るため、体内の熱を放射するためなどと推測されていますが、はっきりした働きはわかっていません。もう一つ特徴的な恐竜として、肉食恐竜“カルノタウルス”があります。頭骨が前後に短く、高さが高く、さらに前頭部に角をもつ独特の形をしています。また、カルノタウルスの皮膚が残っている化石も展示されます。特異な哺乳類化石としては、南アメリカで進化し、発展した巨大アルマジロ、オオナマケモノ、トクソドンなどがあり、陸上の脊椎動物で哺乳類進化をみることができます。

また、現在のアルゼンチンに生息する貧歯類とよばれる哺乳類のオオアリクイやアルマジロなどの不思議な動物や魚類、鳥類、昆虫類、植物、自然を紹介します。

これら南アメリカに生き、絶滅した動物や、現在生息する動物類を通じて、今の地球をふりかえり、その未来について考えるものです。



カルノタウルス



ムツオピアルマジロ ©東京都動物園協会



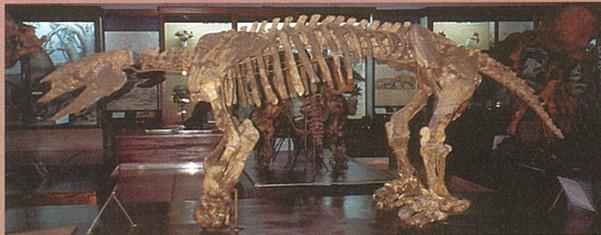
大型クモ類・メガラクネ



巨大アルマジロ・グリプトドンの背甲



チラコスミルスの頭骨



地上性ナマケモノ・スケリドテリウム

## 主な展示資料

- アルゼンチンの昔と今  
ドエデクルス・サーベルタイガーのロボット、ビューマ・アルマジロのジオラマ
- 超大陸バンゲアの時代  
三葉虫、フデシ、最古の魚類化石、大型クモ類
- 恐竜の進化と Gondwana 大陸  
アマルガサウルス、パタゴサウルス、カルノタウルス、ギガノトサウルス
- 南アメリカにいた哺乳類たち  
スケリドテリウム、トクソドン、ホプロホルス、チラコスミルス
- 人類、南アメリカへ  
グリプトドン、メガテリウム、ヒト(ホモ)
- アルゼンチンの自然  
オオアリクイ、アルマジロなどの哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類、植物